



環境報告書 2021





(本学のイメージキャラクター「マナーブ・デ・ジョーキョー先生」)

目 次

学長メッセージ

1. 環境方針
2. 大学概要
3. 運営組織等
4. マテリアルバランス（環境負荷実績）
5. 環境物品等の調達実績
6. 環境配慮活動
7. 地域との連携
8. 関係法令、環境規制への対応

報告対象：山屋敷キャンパス（大学・附属幼稚園）

西城キャンパス（附属小学校・学校教育実践研究センター）

本城キャンパス（附属中学校）

対象期間：2020年度（令和2年度） 2020年4月～2021年3月



山屋敷キャンパスに現れたカモシカ（2020年4月）

学長メッセージ



国立大学法人上越教育大学

学長 林 泰成

上越教育大学は、海にも山にも近く豊かな自然に囲まれた新潟県上越市にあります。こうした地で生活していると、この地を未来の子どもたちのために残したいという気持ちが湧いてきます。こうした気持ちは私の個人的な思いでしかありませんが、しかし、自然環境の保全は、地球規模の大きな課題でもあります。SDGsにもそうした目標が入っていますし、我が国では2011年に全面改正された「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律」で、循環型社会の形成や環境の保全が謳われ、2005年に施行された「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律」では、「関係者との間の重要なコミュニケーション手段である環境報告書の普及促進」が求められています。

そこで、本学では、教育大学としてさまざまな科目の中で環境問題を取り上げることはもちろんのこと、環境配慮の取組を記した「環境報告書」を作成することといたしました。

しかし、この地は冬には気温が零下になることもあり、積雪もありますので、暖房や除雪排雪も必要で、そう簡単に、カーボンニュートラルを実現することも難しいように思います。とはいえ、グローバルな環境問題も、私たちが日常的にできる取組の積み重ねから始めるしかありません。"Think globally、act locally"という言葉もあります。予算規模の小さな地方国立大学とはいえ、地球全体の環境保全を考え、この地から行動と情報発信を続けていきます。

1. 環境方針

国立大学法人上越教育大学 環境方針

(平成 23 年 1 月 12 日制定)

上越教育大学は、自然や歴史、文化に恵まれ、教育に対する深い理解と愛情を有する文教の地において、国際化時代に対応し「地域に根ざした教員養成」を実現するにあたり、教育、研究、社会への貢献、地域連携等の活動に対し、全ての大学構成員が協力して、次の事項を推進することにより、環境との調和と環境負荷の低減に努めます。

1. 持続発展可能な社会の構築に貢献する力量を身につけるための環境教育・環境学習活動を推進し、教育現場をはじめ地域社会において環境保全の推進に活躍する人材の養成に努めます。
2. 豊かな自然との共生を図り、生物多様性を重視し、地球規模で環境を考え、地域から行動・発信し、評価できる人材の養成に努めます。
3. 環境関連法規を遵守するとともに、本学としての特徴を活かした持続発展教育や環境保全活動を推進し、地球環境に対する負荷の低減を図ります。
4. 循環型社会の構築を進めるための環境マネジメントシステムを確立するとともに、大学構成員の意見をもとに継続的な改善を図ります。

●環境に関する体制

上越教育大学における環境保全の活動を推進するため、学長の下に施設安全・環境委員会を設置しています。

施設安全・環境委員会

委員長：理事兼副学長（人事・環境担当）

委員：各学系から選出された教授または准教授（講師及び助教を含む）各 4 人、
附属中学校長、事務局長兼副学長（事務総括・総合調整担当）、
施設課長

2. 大学概要



山屋敷キャンパス



西城キャンパス



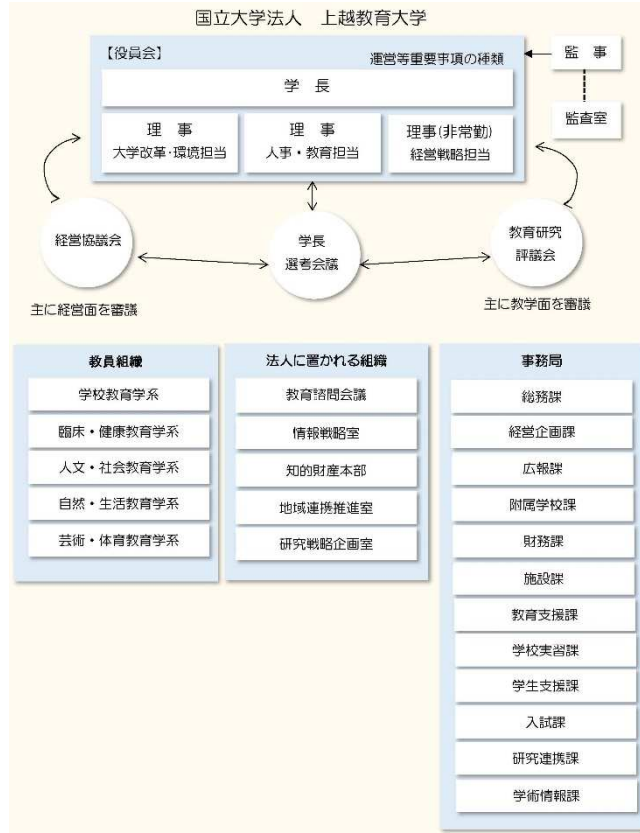
本城キャンパス

●データで見る大学概要

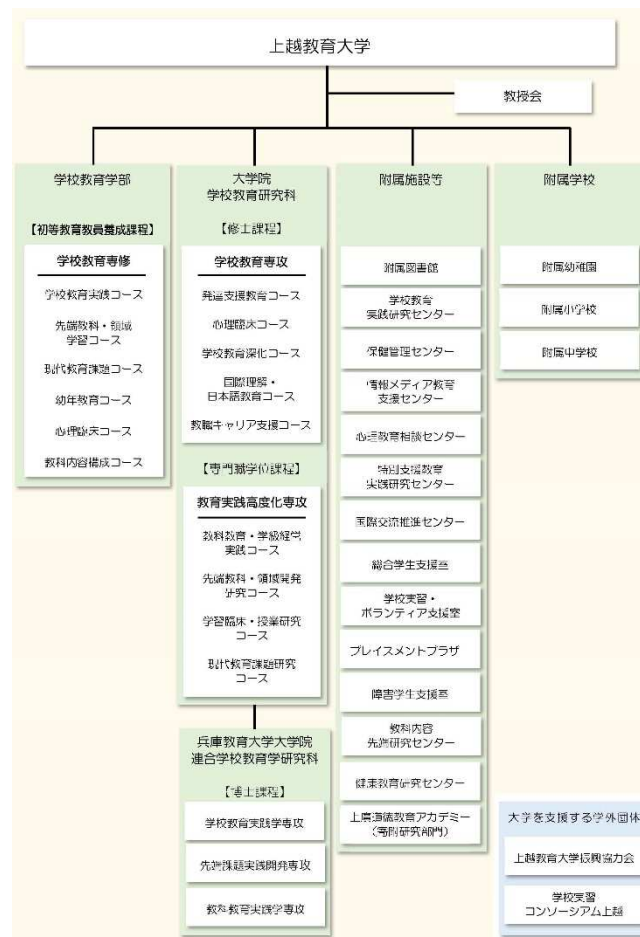
キャンパス名	山屋敷	西城	本城	計
学生(学部)	677名	—	—	677名
学生(大学院)	534名	—	—	534名
学生(連合大学院)	30名	—	—	30名
園児・児童・生徒	58名	406名	321名	785名
教職員	266名	27名	18名	311名
土地	353,041 m ²	36,731 m ²	50,123 m ²	439,895 m ²
建物	66,650 m ²	7,987 m ²	5,930 m ²	80,567 m ²

3. 運営組織等

● 運営組織（法人と大学）

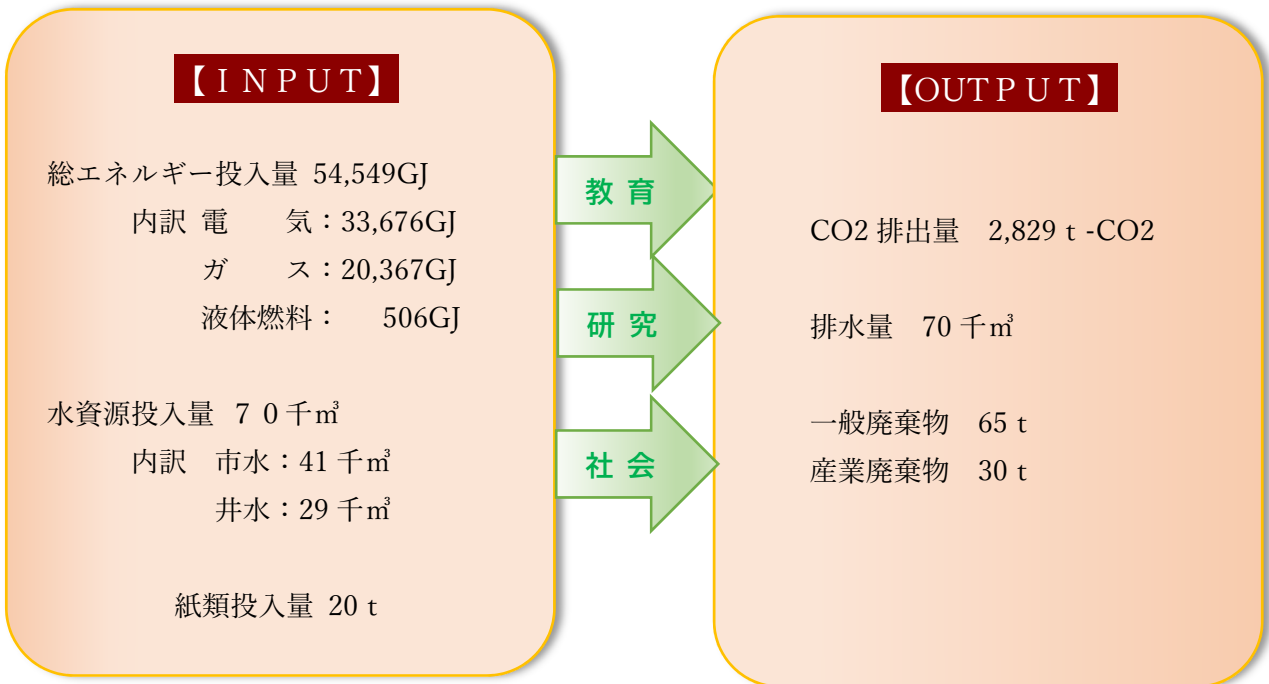


● 教育組織



4. マテリアルバランス(環境負荷実績)

本学の事業（教育・研究・社会）活動におけるエネルギー及び資源の投入量【INPUT】とその活動に伴って発生した環境負荷の排出量【OUTPUT】をあらわす。



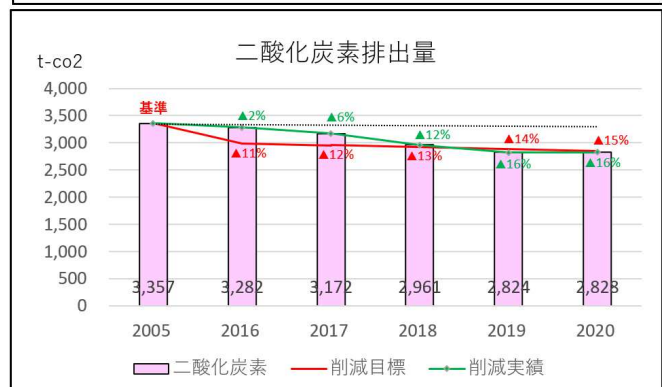
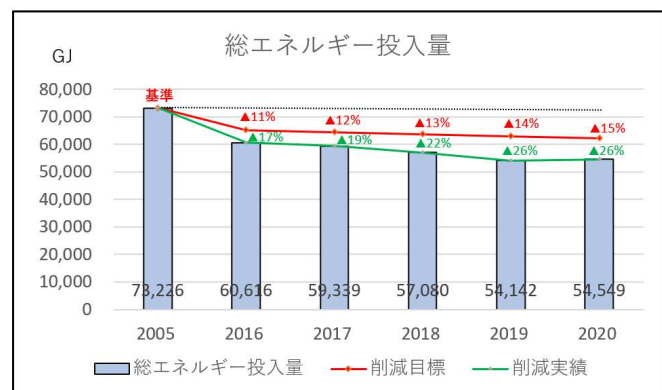
●エネルギー消費削減目標

本学は、平成17年度の排出量を基準として、毎年1%削減することを目標に省エネルギーに取り組んでいます。

●エネルギー消費削減の行動

エネルギー消費削減目標を達成するため、エネルギー使用量の見える化を毎月実施し、省エネ意識の醸成を図っています。

また、エネルギー使用量が多くなる夏季及び冬季に節電計画を示し、削減目標の達成に向けて、省エネ行動を推進しています。



●エネルギー消費量分析・実績

本学で使用するエネルギー量のうち、電気使用量が70%を占めており、ガス使用量は29%、液体燃料は1%の構成です。

ガス使用量は、主に熱源用エネルギーとしてボイラー（暖房・給湯）、冷温水発生器などに使用しています。

総エネルギー投入量は、平成17年度比26%減、対前年度比0.8%増となりました。

対前年度比の内訳は、電気は0.7%減、ガスは2.0%増、液体燃料は約50%増となりました。

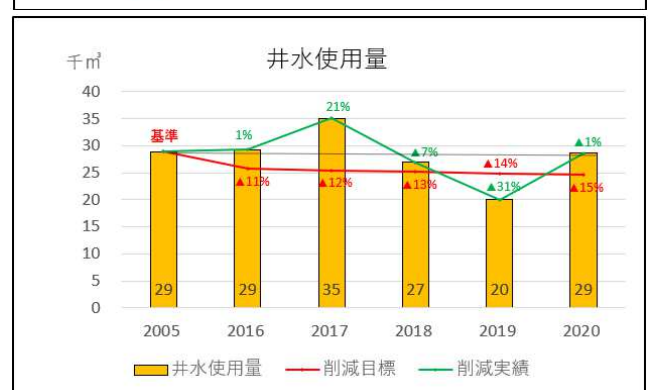
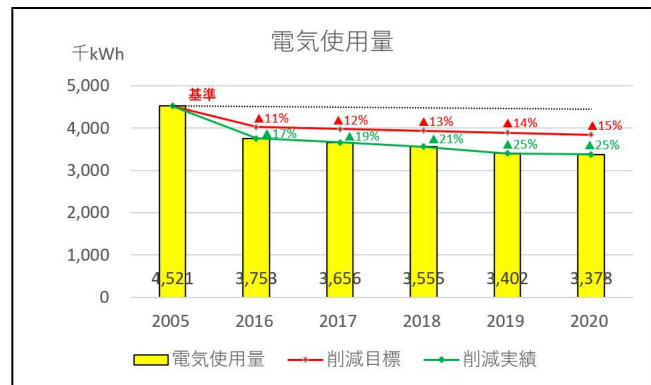
要因として考えられるのが、令和3年1月の大雪による暖房需要の増加です。特に1月7日～11日の降雪量は213cmを記録し、24時間降雪量としては103cmを記録しました。

本学のある上越市は豪雪地帯のため、地下水を利用した消雪設備が構内道路に敷設されており、井水使用量も増加しました。

地球温暖化の原因とされる温室効果ガスのうち占める割合の多い二酸化炭素の排出量は、平成17年度比16%減、対前年度比0.8%増となりました。

●エネルギー消費削減の実施

高効率機器の導入として、人文棟改修工事に際し、LED照明、高効率空調設備、複層ガラス、断熱材等の採用、外灯のLED化を行いました。



LED照明、高効率空調、複層ガラス



高効率空調設備室外機



外灯LED化

5. 環境物品等の調達実績

I. 令和2年度 特定調達品目の調達状況

①目標達成状況

調達方針において、調達予定のないもの以外の目標はすべて100%としておりますが、一部用紙類等において判断基準を下回ったものの、ほぼ100%を達成することができました。

②調達目標を達成できなかった理由等

調達目標を達成できなかった主な理由としては、各種業務において、その用途の特殊性等の理由により、特定調達品目の中に仕様内容を満足する規格品がなかったことによります。

③判断基準より高い基準を満足する物品等の調達状況

判断基準より高い基準を満足する調達はありませんでした。

【令和2年度 グリーン購入実績】

分野	総調達	特定調達物品	目標達成
紙類（7品目）	19,841.478kg	18,104.872kg	91%
文具類（83品目）	101,042品	101,042品	100%
オフィス家具等（10品目）	617品	617品	100%
画像機器等（10品目）	2,349台	2,349台	100%
電子計算機等（4品目）	1,082個	1,082個	100%
オフィス機器（5品目）	3,221個	3,221個	100%
家電製品（6品目）	49台	49台	100%
エアコンディショナー等（3品目）	28台	28台	100%
温水器等（4品目）	1台	1台	100%
照明（4品目）	845個	845個	100%
自動車等（3品目）	21品	21品	100%
制服・作業服（4品目）	108品	108品	100%
インテリア・寝装寝具（11品目）	25品	25品	100%
作業手袋（1品目）	148組	148組	100%
その他繊維製品（7品目）	30点	30点	100%
災害備蓄用品（10品目）	6,387個	6,387個	100%
役務（21品目）	888件	888件	100%
ごみ袋等（1品目）	11,967枚	11,967枚	100%

II. 温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の締結実績の概要(ホームページより)

令和2年度においては、環境配慮契約に該当する契約はありませんでした。

6. 環境配慮活動

I. 上越教育大学リサイクル募金

上越教育大学リサイクル募金は、不要になった本・DVD等の査定額を「上越教育大学基金」に寄附していただく取組です。

寄附金は、上越教育大学基金において、学生の修学支援、教育研究活動の充実発展をはじめとした事業に役立てられます。



II. キャンパス・クリーン・ウィーク

令和2年7月27日（月）～31日（金）の一週間を「構内クリーンウィーク」として、山屋敷キャンパスの環境整備を行いました。

例年この時期に学生及び教職員が集まり、半日かけてキャンパス内の一斉清掃を行っています。新型コロナウイルス感染予防対策として、一週間の中で各自が都合の良い日時に作業を行うこととしました。

この週は梅雨が明けずに雨の日が続いていましたが、ようやく晴れ間が見えたこの日、約60人の教職員が集まり、それぞれが密にならないように注意しながら作業を行いました。



III. 緑の小道

緑の小道周辺の森は、古来より脈々と継承されてきた歴史と文化が既存樹木を介してうかがい知ることができる貴重な体験の場であり、その貴重な森を守るには、上越地域の潜在自然植生種の保護育成に努め、外来種をできるだけ排除する環境整備を行うことが重要です。

かつて地域の人々の生活の場であった里山（薪炭林や農用林として使われ、守られてきた二次林）を散策道として整備したもので、貴重な教材として捉えた自然環境学習の場として内外から活用されています。

整備当初から保全・整備及び活用推進を図るため「緑の小道レンジャー隊」を毎年、学生・教職員により編制しており、危険個所の点検等を実施しています。



7. 地域との連携

I. 春日山城跡の草刈り

令和2年7月26日（日）、9月13日（日）春日山城跡保存整備促進協議会が主催する「春日山城跡の草刈り」に参加しました。

これは、上杉謙信公の居城として知られる春日山城跡の環境整備事業として行われたもので、地域の町内会などから延べ390名以上が参加し、本学からは有志の学生及び職員延べ27名が参加しました。主に「千貫門跡」の雑草の刈り取りや枯れ葉などの片付けを行い見違えるように綺麗にしました。

春日山城跡のお膝元に位置する大学として、引き続き地域貢献に努めていきます。



II. 土塁環境整備

令和2年10月17日（土）日本三大夜桜で有名な高田城址公園において上越市が主催する「高田城址公園環境整備」に参加しました。

この日整備したのは、高田城址公園内に立地する本学附属中学校北側の土塁で、生徒の安全への配慮から普段は立入禁止になっているところです。

午前中、造園業者が内堀の水際に茂っている雑木約50本を伐採し、午後から市民等約40名と一緒に伐採した雑木の搬出・積み込みの作業を行いました。



8. 関係法令、環境規制への対応

関係法令等	本学の対応
水質汚濁防止法	水質検査
下水道法	水質検査
大気汚染防止法	ばい煙測定
グリーン購入法	公表
環境配慮契約法	公表
上越市生活環境の保全等に関する条例	届出

◆令和3年1月の大雪の記録◆

1月7日午後から11日にかけて集中した降雪により、降雪量は213cmを記録しました。また24時間降雪量としては9日に103cmを記録しました。これは、上越市によると1月としては昭和61年以来、35年ぶりの記録的な大雪となりました。



【山屋敷キャンパス】
(本部事務局前)



【山屋敷キャンパス】
(附属幼稚園前)



【西城キャンパス】
(附属小学校体育館)



【本城キャンパス】
(附属中学校正面アプローチ)



公表年月：2022年2月

作成：上越教育大学施設課

〒943-8512 新潟県上越市山屋敷町1番地

Tel：025-521-3263 / Fax：025-521-3269

E-mail：shisetsu@juen.ac.jp

URL <https://www.juen.ac.jp/index.html>